

豪州のホームレス事情 －豊かな国の貧困問題－



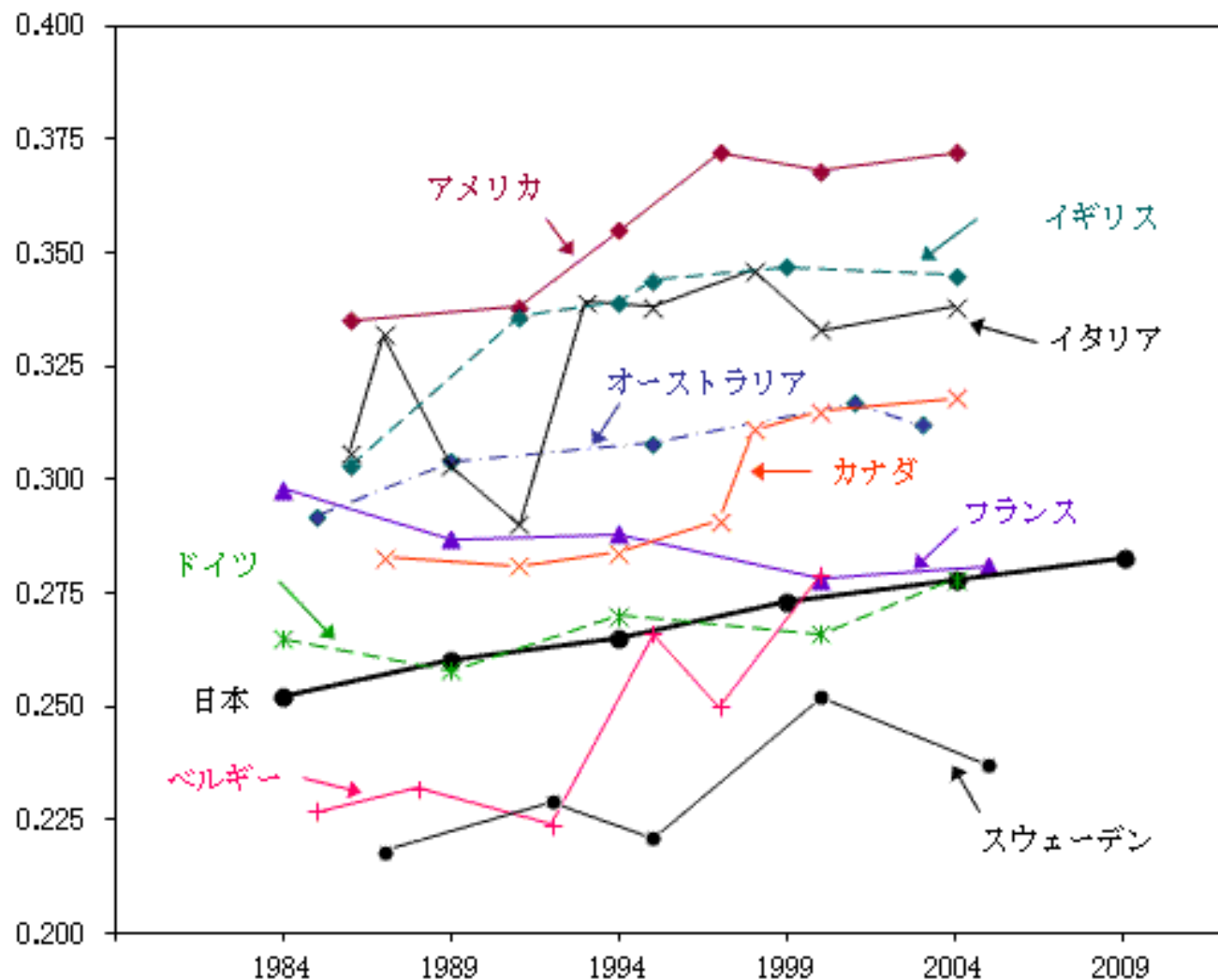
ガバナンス6期 柏倉(神奈川県庁)

(写真＝ロイター)

<http://jp.reuters.com/article/homeless-idJPKCN0W907P>

意外と高い豪州の所得格差(ジニ係数)

(資料) 平成21年全国消費実態調査 <http://www.stat.go.jp/data/zensho/2009/keisu/yoyaku.htm>



国名(調査年※)		ジニ係数
アメリカ	(2004年)	0.372
イギリス	(2004年)	0.345
イタリア	(2004年)	0.338
カナダ	(2004年)	0.318
オーストラリア	(2003年)	0.312
日本	(2009年)	0.283
フランス	(2005年)	0.281
ベルギー	(2000年)	0.279
ドイツ	(2004年)	0.278
スウェーデン	(2005年)	0.237

※LIS公表データ(直近値)

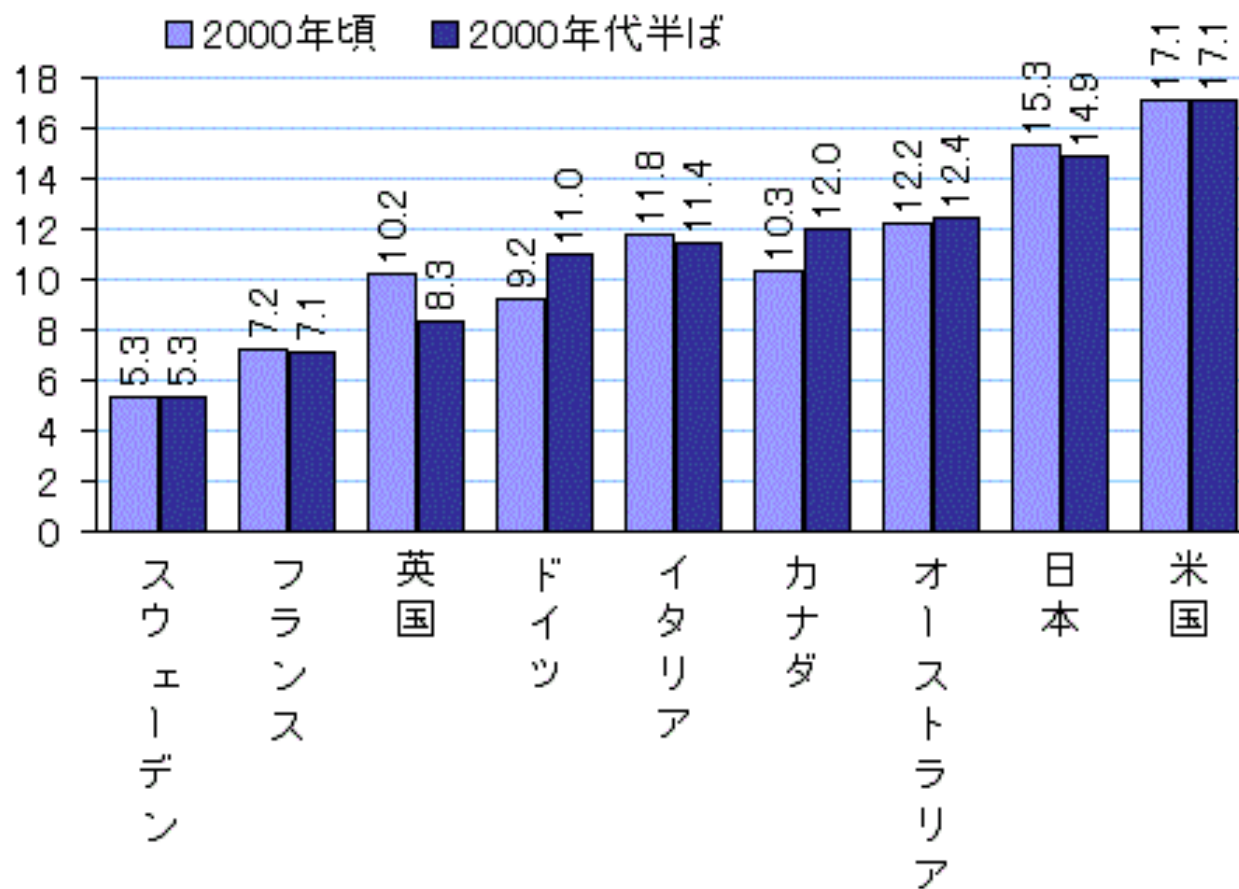
(出所) 日本……………全国消費実態調査結果より

[ただし、平成6年(1994年)以前は経済企画庁経済研究所 経済分析政策研究の
視点シリーズ11より]

日本以外… ルクセンブルク所得研究(LIS)より

相対的貧困率の国際比較

所得の分布における中央値の50%に満たない人々の割合(%)

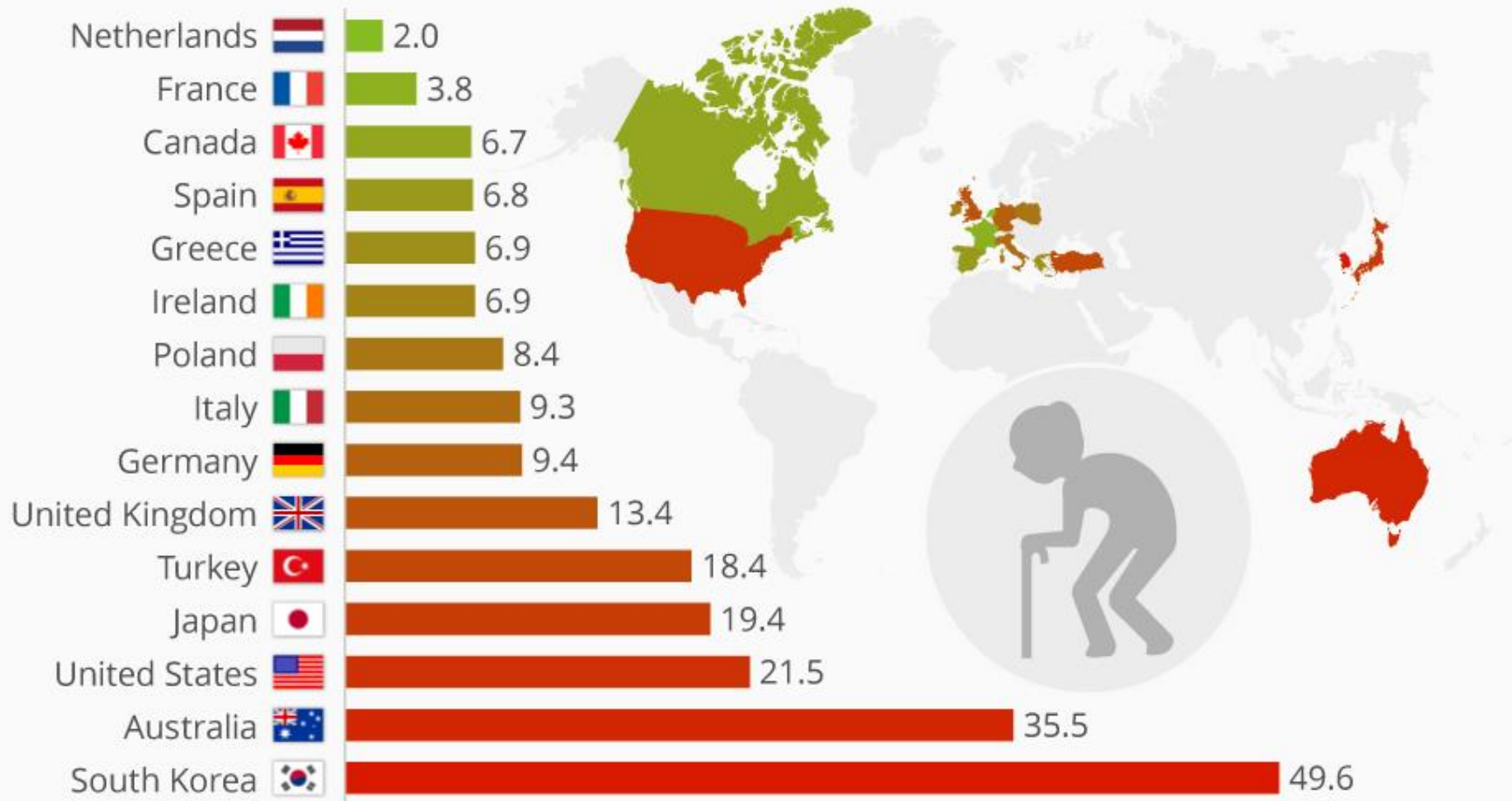


高齢者の貧困率は世界第2位(OECD)

フォーブスジャパンWEB記事(2015.12.15) <http://forbesjapan.com/articles/detail/10540>

Where Is Pensioner Poverty The Most Prevalent?

% of people aged 65+ living in relative income poverty in selected OECD countries*



* Income poverty refers to income below half the national median equivalised household income

Source: OECD



豪州の一人当たりGDPは世界トップクラス
(日本の約1.6倍)なのに、なぜ貧困が広がっ
ているのか？

- ・ 人口が都市に集中しており、家賃や物価が非常
のhighのため、失業者や年金に頼らざるを得ない
高齢者にとっては生活困難となる
- ・ 特に大都市では賃貸物件の供給数が少ないた
め家賃が急騰しており、シドニー市では1ベッ
ドルームでも月20万円ほどかかるらしい
- ・ また、社会保険制度が未発達で、医療・福祉・
年金が一般財源中心であることも影響している
(不況になると税収減で削減対象となる)

「豪シドニーでホームレス急増、高騰する家賃 払えず」(2016.3.5 ロイター配信記事)

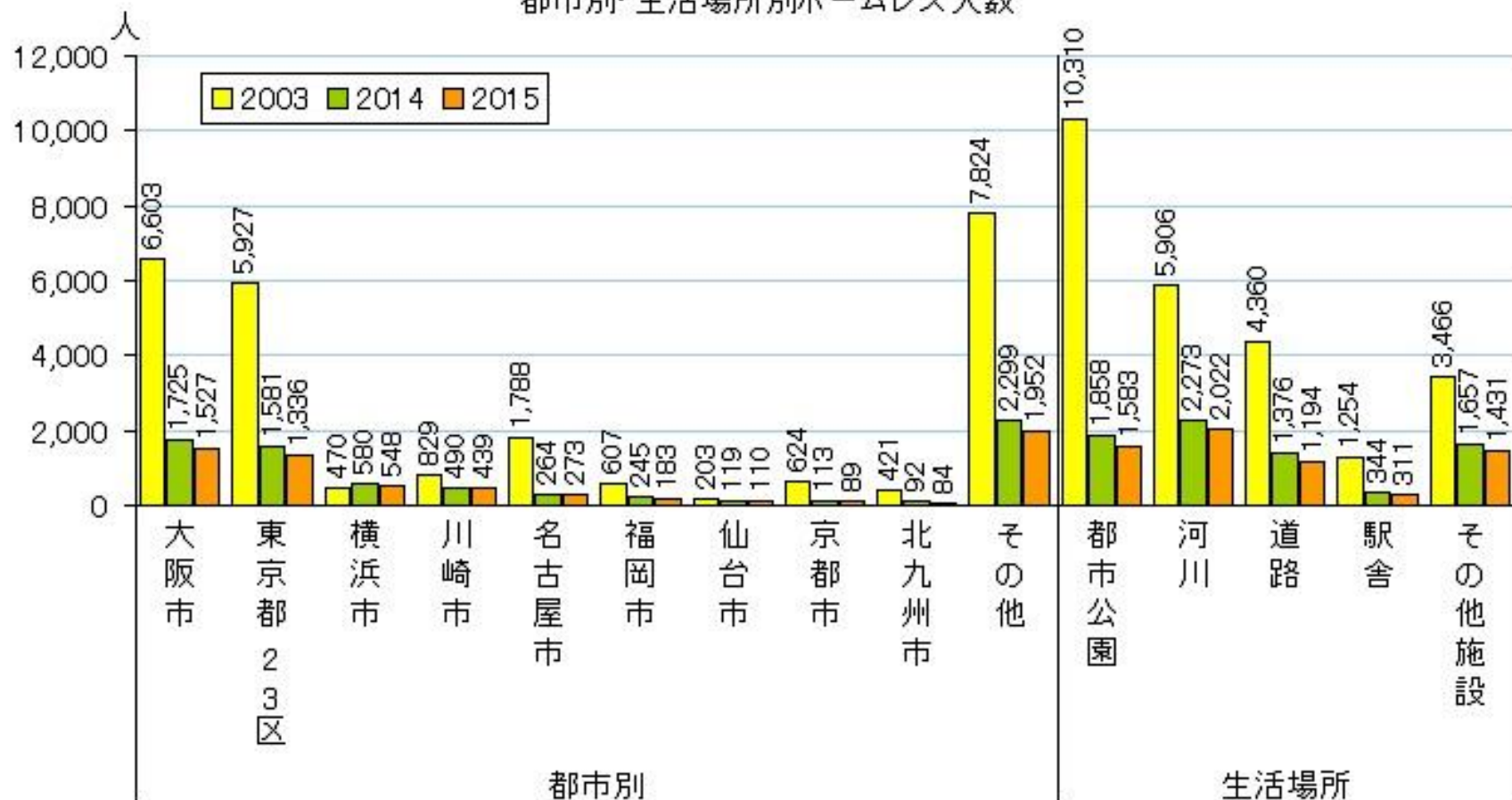
<http://jp.reuters.com/article/homeless-idJPKCN0W907P>

- ・ [シドニー 5日 ロイター] - 豪シドニーの市職員とボランティアが2010年以来非公式に行っている路上での野宿者数調査「ストリートカウント」で、市内の路上で寝起きしているホームレスの数が**486人**と、前年から約25%増加し、調査開始以来最多となった。

- ・ ムーア市長は声明を発表し、「これは悲劇的な状況。野宿者数の急増を深く悲しんでいる。周知の通り、シドニーは住宅危機にあり、中所得者層でも家賃や住宅ローンの支払いに苦慮している」と述べた。

- ・ 市の統計によると、2006年以降、市内の家賃の中央値が60%上昇したのに対し、家計所得は48%の上昇にとどまっている。

都市別・生活場所別ホームレス人数



(注) 全市区町村における目視による概数調査(1月)の結果。ホームレスの定義は「都市公園、河川、道路、駅舎その他の施設を故なく起居の場所として日常生活を営んでいる者」(「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」(平成14年法律第105号))。都市は2015年の人数の多い順、80人以上9位までの都市。その他には都市以外を含む。

(資料) 厚生労働省「ホームレスの実態に関する全国調査結果」

豪州の国勢調査ではホームレス(HL) は10万人(!)と計上されている

- ・ 2006年調査では104,676人、最新の2011年調査でも105,237人(人口2,200万人の約0.5%)
- ・ 実は豪州ではHLの定義を「最低限の住宅水準に達しない者」として、かなり広くとっている
(居候や一部屋に何人も住んでいる人も含む)
- ・ 例えば2006年データでは、路上等16,375人(16%)、友人宅等46,856人(45%)、シェルター19,849人(19%)、下宿21,596人(21%)となる
- ・ 豪州の貧困対策は住宅供給だけではなく居住水準改善も重視しているのが特徴である

「HLを減らす」という目標がHL排除にならないよう、行政機関が議定書を作成している

- ・ 2000年シドニー五輪を契機にして作成
- ・ HL排除が社会問題化したアトランタ五輪以降、五輪開催都市においてホームレス対策は大きなテーマになっているが、シドニー市のこの取り組みは他に例を見ない

＜ホームレス・プロトコルの基本理念（一部抜粋）＞

- ・ HLの人々は、他の全ての市民が有する権利と同じ権利を有する
- ・ 公共空間にいる権利を有し、同時に地域コミュニティの人々が安全で平和な環境に住まう権利を尊重する
- ・ 公共の活動やイベントに参加する権利を有する
- ・ 自身の所有物を運んだり、保管する権利を有する

一方ではこんな噂も・・・ (シドニー市の例)

- ・ 豪州のHLは元々傷痍軍人が多いためか市民はHLに概ね優しいが、それに付け込む輩が多い
- ・ HLは週2万円ほどの失業手当がもらえるうえに物乞いで週6万円ほど稼げる(年収400万！)
- ・ 暗黙の了解で(運転手が黙認)バス・電車がタダで乗り放題である
- ・ 日中は物乞いをし夜は公共住宅に帰っていくというホームレス(もどき?)が結構いる
- ・ 「普通に働くより楽で儲かるから一生ホームレスでいる」と考えているらしい

考察

- ・ 豪州は自由で豊かな先進国だが、一方でかなりの格差社会であり、貧困問題を抱えている
- ・ 豪州政府もそれは認識しており、貧困対策は国家の重要課題として熱心に取り組んでいる
- ・ 結果として、スラム街等もあまりなく清潔であり、一定の評価はできるのではないか
- ・ 特に五輪をきっかけとした「HLプロトコル」などHLを排除しないための取組みは注目に値する
- ・ しかし、HLは増加傾向にあり、自立支援の面では課題を抱えているようである

主要参考文献

- ・ 河西奈緒・杉田早苗・土肥真人『オーストラリアにおけるホームレス支援の実態に関する研究』（（社）日本都市計画学会・都市計画論文集45-3、2010.10）
- ・ 北畠拓也・河西奈緒・土肥真人『行政機関が締結している公共空間におけるホームレス・プロトコルの研究』（（社）日本都市計画学会・都市計画論文集49-3、2014.10）
- ・ メリッサ・ウォン『オーストラリアにおける若者の雇用と住宅問題』（Business Labor Trend 2016.4）

<おまけ>

- ・メルボルンの公園で電動のバーベキュー台を見つけました→
- ・市民は無料で使えるが、使用後はきれいに清掃して帰るらしい
- ・豪州では投票所でもバーベキューを振る舞うそうで、国民食なんだと改めて感じました





「こんなものを見つけました」↑

- ・ シドニー市ハイドパークの一角に「Nagoya Gardens」があり、1983年に姉妹都市・名古屋市から贈られた石灯籠が置かれていた
- ・ 翌1984年に名古屋市は石灯籠のお礼にコアラを受け取ったらしい（実は日本では初めてのコアラ）

